

6章 各施策について

1. スポーツをする空間・場所の確保、充実

市としてのスポーツ施設の整備方針を検討し、スポーツ施設の新設、既存施設の再整備を推進します。また学校開放の充足を図ります。

(1) 公共スポーツ施設の整備

★重点施策

市川市のスポーツ施設整備の方針

公共スポーツ施設の現況や課題、市民の需要を踏まえ、今後の市川市のスポーツ施設整備の方針を検討しました。

公共スポーツ施設の整備が求められています

- ・新たなスポーツ施設整備の需要が高くなっている
- ・サッカーや少年野球などの単一種目専用のスポーツ施設が不足している
- ・多目的なスポーツ広場整備の需要がある
- ・市の北東部は、他地区と比較し、スポーツ施設の種類や数が少なくなっている
- ・既存スポーツ施設の老朽化がみられる



市川市のスポーツ施設整備の方針

新規スポーツ施設の整備1：スポーツ施設が少ない地域に、多様な機能を要する複合スポーツ施設を整備する

新規スポーツ施設の整備2：多目的利用、もしくは単一種目専用のスポーツ施設を、市各地域に整備する

既存スポーツ施設の再整備、バリアフリー化

地域空間の利用・活用

具体的な施策

スポーツ施設整備の方針から、今後、整備が望まれる構想（案）の検討を行いました。

図表 6 - 1：具体的なスポーツ施設整備計画の構想（案）

施設整備の方針	計画の場所	構想（案）
複合スポーツ施設の新たな整備	北東部地区	既存の市民プールなどと整合性を図り、体育館や球技が可能なスペース等の整備を目指します。
	本行徳地区	体育館などの整備を目指します。
多目的利用もしくは単一種目専用のスポーツ施設の新たな整備	福栄スポーツ広場	現在の福栄スポーツ広場(野球場、芝生広場など)の機能を補完していくとともに、県の第3整備計画地に新たなスポーツ施設を要望していきます。
	国分川調節池	日常の運動や、イベントなど、多様な利用ができるよう、多目的広場の整備を目指します。
	広尾防災公園	多世代の利用者が多様な軽スポーツが楽しめる多目的広場の整備を目指します。
既存スポーツ施設の再整備、バリアフリー化	国府台公園周辺	国府台公園周辺の整備については、スポーツセンターの機能を補完していくことを目的とし、市川市健康ゾーン構想との連携を図り検討していきます。スポーツセンターについては、施設改修（バリアフリー化）、備品類（トレーニング器具等）の充実を踏まえ「安全・安心」の総点検を進めていきます。
	塩浜市民体育館	施設改修（バリアフリー化）、備品類（トレーニング器具等）の充実を踏まえ「安全・安心」の総点検を進めていきます。
	信篤市民体育館	
	市川市市民プール	
	いちかわ市民キャンプ場	体験学習ゾーンとして再整備することを目指しながら、既存の施設の「安全・安心」を重視した再整備を計画的に行います。
公園内等スポーツ施設のリニューアル	各地の公園等に点在するスポーツ施設について、計画的にリニューアルを目指していきます。	
地域空間の利用・活用	市全域	買い物、通勤通学の途中に、気軽に立ち寄り、健康体操や軽スポーツが実施できる施設の整備を進めます。
		民有地を借り受けて使用しているスポーツ広場等を将来的にも利用できるように、地権者と調整協議し、用地の保持に努めます。また新たな用地の確保についても検討していきます。



(2) 利用可能な施設、空間の有効活用

現況

本市では、体育館、運動場、プールの開放を、市内の小中学校で行っています。(平成17年度の施設開放委員会登録団体：854団体、24,475人 学校プール開放を除く)

軽スポーツやニュースポーツについて、スポーツ施設や学校施設の他、公園、緑地、公民館の体育室やレクリエーションルームなどでも行われています。高齢者や子育て層については、それぞれ老人いこいの家やつどいの広場といった専用の公共施設でのスポーツの実施が見られます。

また大学や企業のスポーツ施設や、民間のフィットネスクラブ・スポーツクラブでも、様々なスポーツ・レクリエーション活動が行われていると考えられます。

図表6-2：小中学校の学校開放状況 平成17年

	合計	運動場	体育館	教室等
利用者数	1,255,981	576,942	569,726	109,313
回数	50,025	18,011	27,097	4,917

図表6-3：小学校のプール開放状況

	学校数	利用者数(人)
平成17年度	39	24,336
平成18年度	36	18,609

具体的な施策

【学校施設開放の推進・発展】

学校施設開放のより効率的な運営を目指し、運用方法や管理体制の検討を行います。またサタデースポーツ教室、コミュニティクラブ事業や総合型地域スポーツクラブなどの組織や事業との連携を図ります。

【公共スポーツ施設の使いやすさの向上】

公共スポーツ施設の運用面の改善を図ります。利用時間、予約方法、設備の備品などの改善を検討し、施設の使いやすさを向上させていきます。

【大学や企業のスポーツ施設との連携】

大学や企業のスポーツ施設について、施設概要や利用実態を把握し、効果的な施設利用の可能性を検討します。

【身近な空間や場所の有効活用】

歩いて楽しいウォーキングコースの設定やマップの作成、軽スポーツ等ができる公共施設のちょっとしたスペースの探索など、身近な空間や場所の有効活用について検討します。

また、買い物、通勤通学の途中に、気軽に立ち寄れ、健康体操や軽スポーツが実施できる施設の整備を進めます。(「公共スポーツ施設の整備：地域空間の利用・活用」にも記載)

【子どもの居場所づくりの検討】

公共施設や公園、広場などに、子どものためのスポーツ指導者の派遣やスポーツに関連するプログラムの提供などを体系的に行うことにより、子どもがスポーツを楽しめる場所を増やすことを検討します。

【民間スポーツ施設との連携】

民間スポーツ施設について、市民が利用する際の使用料を補助することにより、健康増進を図ることができないか検討いたします。

2. スポーツ団体・クラブの育成

誰もが気軽に参加できるスポーツ団体・クラブの育成に向け、従来型の組織の充足に加え、現在、市で重点的に取り組んでいる総合型地域スポーツクラブ育成・設立の推進を図ります。

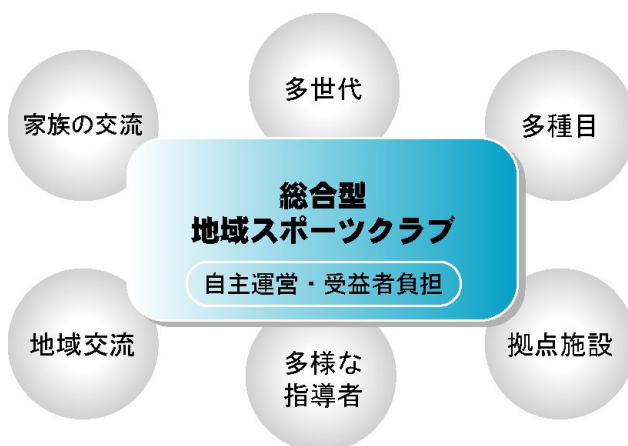
(1) 総合型地域スポーツクラブの育成

★重点施策

『総合型地域スポーツクラブ』とは

総合型地域スポーツクラブは、地域住民が自主的に運営し、子どもから高齢者まで、様々な人が参加できるクラブとなっています。従来の単一種目を行うクラブとは異なり、様々な種目のスポーツが行われ、各々が、自分の趣向やレベルにあわせたプログラムに参加することができます。

総合型地域スポーツクラブは、地域住民の健康づくり、生きがいづくりを促進し、地域コミュニティの基盤となっていくことが期待されています。



図表6-4：総合型地域スポーツクラブのイメージ図

総合型地域スポーツクラブの設立

本市では、平成18年4月に国府台地区で総合型地域スポーツクラブ「市川スポーツガーデン国府台」が設立されました。また、塩浜地区でも、平成19年4月の設立に向けて準備を進めています。



市川スポーツ
ガーデン国府台のロゴ

図表6-5：市川スポーツガーデン国府台の概要 平成18年現在

実施種目	会場
卓球/バドミントン/バレーボール/ソフトバレーボール/サッカー/テニス/ソフトテニス/バスケットボール/エアロビクス/1スタ(体操など)/ハワイアンフラダンス	市川市スポーツセンター 国府台市民体育館 中国分スポーツ広場 国府台小学校 市川小学校 東京医科歯科大学



市川スポーツ
ガーデン塩浜のロゴ

図表6-6：市川スポーツガーデン塩浜の概要 平成18年現在

実施種目	会場
フラダンス/フットサル/ソフトバレーボール/卓球/ユニホッケー/テニス/グラウンドゴルフ/フォークダンス/ピラティス	塩浜市民体育館 青葉少年スポーツ広場

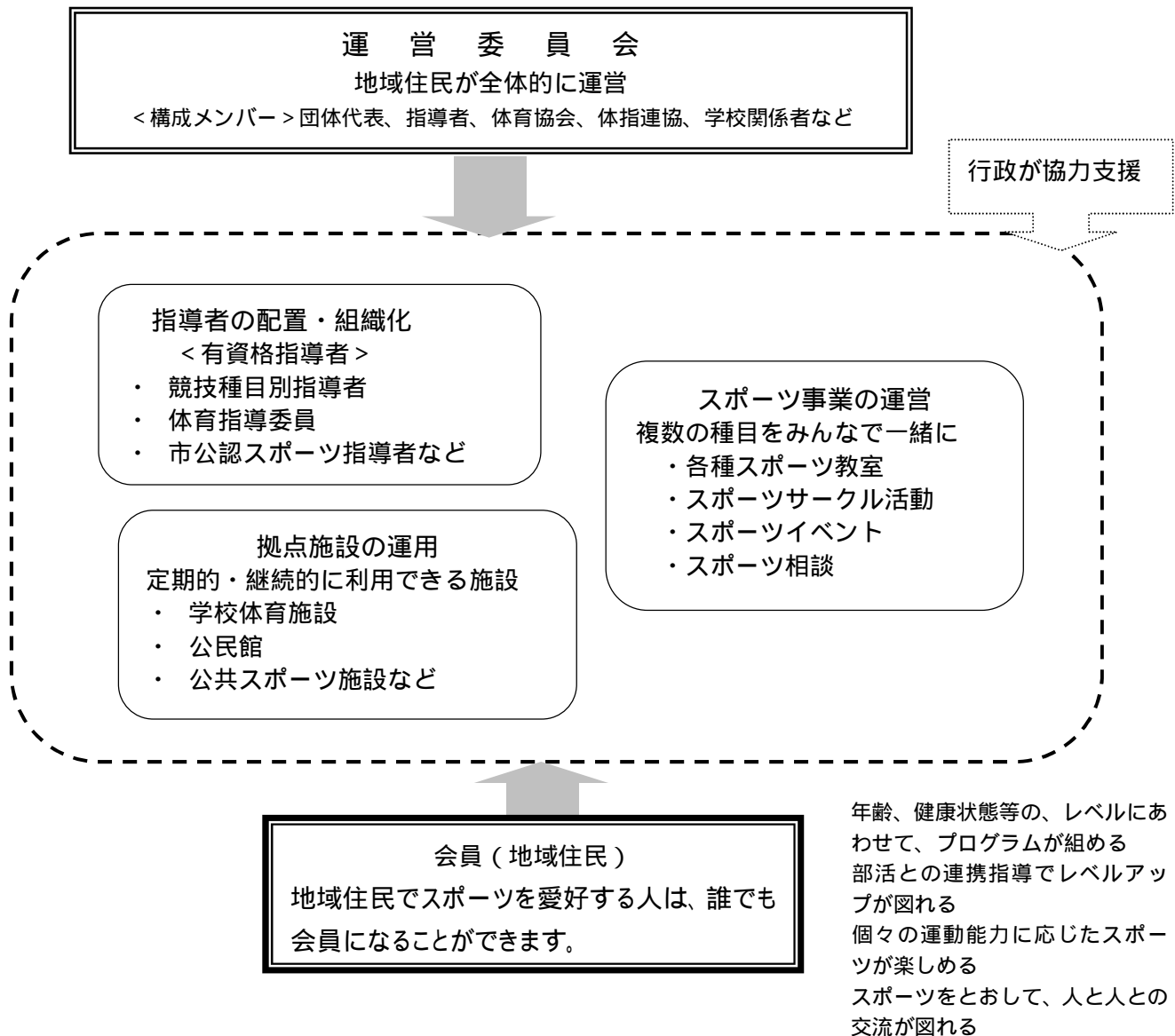
具体的な施策

【国府台地区と塩浜地区のクラブの育成】
 既存の総合型地域スポーツクラブでは、地域住民主体のクラブ運営をサポートし、地域・会員相互のコミュニケーションの活性化、会員数の増加、プログラムの充実・向上を目指します。

【総合型地域スポーツクラブの設立】
 他地区にも新たな総合型地域スポーツクラブの設立を目指します。将来的には、市内4箇所のクラブ設立を目指し、個々のクラブの自主性を尊重しながら、各クラブ相互の関係を強化して、市川市の総合型地域スポーツクラブの大きな特徴として育成していきます。

【クラブ運営者や指導者の育成】
 クラブを運営していくスタッフの育成を図ります。またスポーツ指導者の資格保持者や体育指導委員などから指導者の発掘を行うことや、クラブ会員を指導者として育成していきます。

図表6 - 6 : 総合型地域スポーツクラブの組織モデル図



(2) 既存スポーツ団体・クラブの活性化

現況

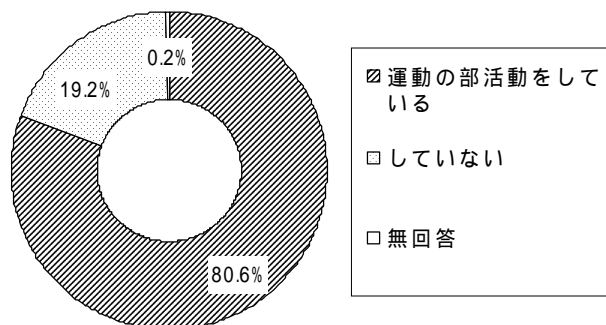
市川市には、様々な種目の、対象者やニーズにあった、多くのスポーツ団体・クラブが存在しています。市民意識調査では、18歳以上の市民の16.3%が、また中高生の80.6%がスポーツ団体・クラブに所属しており、スポーツ団体・クラブの活性化がスポーツ振興に密接に、関係していると考えられます。

図表6-7：市及び市体育協会に登録しているスポーツ団体・クラブ 平成18年度（2のみ17年度）

	団体数	人数(人)
市川市体育協会加盟団体 1	1,014	24,257
学校体育施設利用登録の団体 2	854	24,475
青少年育成課所管の団体 3	83	2,410
市川市スポーツ少年団	11	250
公民館利用の団体	230	3,976

- 1 加盟団体35団体に登録しているクラブ
(小中体連・高体連・スポーツ少年団除く)
 - 2 学校体育施設利用登録の団体、体育使用以外の団体も含む
 - 3 少年野球連盟・女子フットベースボール連盟
- ・利用団体は、日常的・定期的に活動している団体のみ。
 - ・数字は全て概算であり、同じ団体が複数の施設等に登録している可能性がある。

図表6-8：中高生のスポーツの部活への所属 平成17年度調べ、n=411



図表6-9：小学校の部活動・活動状況（市内39校） 平成18年度

種目	ミニバスケットボール	サッカー	相撲	水泳	陸上
部活動	11	10	38	39	39
社会体育	18	24			
部活動&社会体育 (部活動に準じるクラブ)	7	6			
他校へ行って活動	2	1			
活動していない	2	0	1	0	0

部活動と社会体育の両方で実施している学校(ミニバスケットボール=1校、サッカー=2校)

相撲、水泳、陸上については季節限定で活動

図表 6 - 10 : 中学校の部活動・活動状況 (市内 16 校) 平成 18 年度

種目	部活動数		種目	部活動数	
	男	女		男	女
陸上競技	8	9	ソフトニス	10	10
水泳競技	0	0	卓球	9	5
バスケットボール	13	16	バドミントン	3	7
サッカー	16	0	ソフトボール	0	5
ハンドボール	2	1	柔道	10	5
軟式野球	16	0	剣道	15	13
体操競技	0	1	空手	0	0
バレーボール	10	15	合計	112	87

具体的な施策

【総合型地域スポーツクラブとの連携】

総合型地域スポーツクラブと既存スポーツ団体・クラブを連携させ、総合型地域スポーツクラブの充実を目指します。

【競技大会の充実、参加の推進】

市川市体育協会と各加盟団体による市民体育大会の充実を進める他、県民体育大会等の競技大会への参加を促進します。

【活動拠点の確保の支援】

公共スポーツ施設の整備、学校開放の充実、施設の情報提供等により、活動拠点の確保を支援していきます。

【部活動と地域の連携】

地域の競技レベル向上のために、学校の部活動と地域の青少年クラブの練習や大会などでの交流を推進します。競技レベルの高い学校の指導者や生徒を、指導者として地域のクラブに派遣することも考えられます。

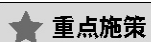
また不足が叫ばれている指導者について、指導者が、必要とされる部活動や地域のクラブに円滑に就任できる体制づくりに努めます。



3. スポーツを支える人材の育成・確保

スポーツ指導者や、スポーツクラブ・団体、スポーツ施設、各種イベントの管理・運営を行う人材など、スポーツを支える人材の確保・育成を図ります。

(1) スポーツ指導者の育成と確保



指導者不足と、様々な指導者の資格

市川市には、青少年、未就学児、障害者、高齢者など、様々な方を対象としたスポーツ教室があり、多くの指導者が活躍しています。一方で、指導者の高齢化や、市民ニーズの多様化などにより、スポーツ指導者の不足が指摘され始めています。

また、市川市のスポーツ指導者は、情報が複数の所管で管理され、資格の種類も多く複雑となっているため、市民の要望に対し適切な指導者の派遣が行われていない可能性があり、各指導者が十分に活躍の場に到達できていない現状が考えられます。

図表6 - 11：主なスポーツ指導者の状況 平成18年

名称	登録期間	登録方法・資格等	人数(人)	設置年度
市川市体育指導委員	2年で更新	市川市体育指導委員に関する規則による	100	昭和37年
市川市スポーツリーダーバンク	2年で更新	申請者を市で認定 県や関係団体が認定している資格保持者か 同程度の指導力を有する者	33	昭和59年
千葉県社会体育公認指導員	5年で更新	市の推薦による者で、養成講習会(70時間) を受講したもの	27	昭和57年
千葉県スポーツプログラマー	4年で更新	市の推薦による者で、養成講習会(133時間) を受講し、検定試験に合格した者	8	平成4年
千葉県スポーツリーダーバンク	5年で更新	市または種目団体の推薦者を県で認定	35	平成元年

他に体育協会加盟団体の指導者、保健体育課の登録指導者、青少年育成課の登録指導者、公民館等で実施するスポーツ教室の指導者、健康増進センターの運動指導員、高齢者福祉課の事業をサポートしている指導者など

民間スポーツ施設で活躍している指導者も多数いると考えられる

日本体育協会公認スポーツ指導者などの有資格者でありながら市の指導者名簿に登録されていない者も多いと考えられる

図表 6 - 12 : 部活動等地域指導者事業の種目別一覧 平成 17・18 年度

	種目	17 年度		18 年度	
		実施校	指導者数	実施校	指導者数
小学校	サッカー	16	18	10	14
	ミバスケ	18	33	14	29
	水泳	1	2	4	6
	陸上	0	0	0	0
	相撲	0	0	0	0
小計		派遣校 26	派遣人数 53	派遣校 21	派遣人数 49
中学校	サッカー	9	10	9	12
	バスケット	4	5	4	5
	バレーボール	6	7	7	8
	野球	5	8	3	5
	剣道	2	2	2	2
	バドミントン	1	1	0	0
	ソフトボール	1	1	1	1
	ハンドボール	0	0	0	0
	陸上	0	0	0	0
	ソフトテニス	7	10	4	6
	卓球	2	2	2	2
	柔道	1	1	2	2
小計		派遣校 14	47	派遣校 13	派遣人数 43
合計		延 40	延 100	延 34	延 92

複数の種目で同じ学校に派遣しているケースもあるため、実施校と派遣校の数は同じにはなりません。



市川市公認スポーツ指導者制度

平成 18 年度から、市川市のスポーツ振興と競技力向上及び、生涯スポーツ社会の実現を目指し、指導活動の促進と指導体制を確立するため、「市川市公認スポーツ指導者制度」を制定し、養成講習会を実施しています。毎年 50 名程度の指導者認定を目指しています。



図表 6 - 13：養成講習会の概要 平成 18 年現在

講習会の流れ	受講時間・期間	主なカリキュラム
カリキュラムの受講	期間： 約 6 ヶ月	スポーツ指導者の意義と原則
検定試験	受講時間： 集合講習 36 時間	フィットネストレーニング(実技)
認定	自宅講習 21 時間	ジュニア期のスポーツの取り組み
		高齢者とスポーツ
		地域におけるスポーツ振興 など



養成講習会の様子

具体的な施策

【市川市公認スポーツ指導者制度の推進】

「市川市公認スポーツ指導者制度」を市川市の基本的なスポーツ指導者の資格とし、既存スポーツ指導者や新たな人材に、資格取得のPRを行い、スポーツ指導者の発掘・育成を行います。

【活躍の場の確保】

スポーツ指導者が、総合型地域スポーツクラブ、学校の課外活動、市のスポーツイベント、教室といった様々なスポーツ振興の場に適切に派遣されるように、指導者の派遣制度を整備していきます。

【生涯スポーツ指導者の育成】

誰もが気軽に楽しめる生涯スポーツの推進のために、様々な対象者に対応した指導者育成研修会や、ニュースポーツや軽スポーツなどの指導者育成研修会の開催を推進します。

【青少年クラブの指導者の育成】

青少年クラブにとって、指導者の質や数が、青少年の育成に大きく関わってきます。そこで、市公認スポーツ指導者や体育指導委員などから、指導者の確保・育成をしていく必要があります。関係者と調整協議していきます。

【総合型地域スポーツクラブ中核スタッフの育成】

総合型地域スポーツクラブの立ち上げや運営には、従来の実技指導を中心とした指導者とは異なり、経営（マネジメント）や連絡調整（コーディネーション）の能力を持った人材が必要となります。行政職員や体育指導委員、各競技団体の指導者など、設立準備委員会の中心となる人材に対しては、積極的にクラブコ-ディネーター養成講習会等への参加を促すなど、計画的に養成を進めていきます。

【スポーツボランティアの発掘・育成・確保】

総合型地域スポーツクラブのスタッフや、イベントやスポーツ教室には、多くのボランティアとなる人が必要となります。定期的に講習会を行うなど、スポーツボランティアの発掘・育成・確保を促進する必要があります。

4 . スポーツ機会の創出

年齢や、個人の趣向、体力にあわせたスポーツイベント・教室等の実施、スポーツプログラムの開発の検討を行います。

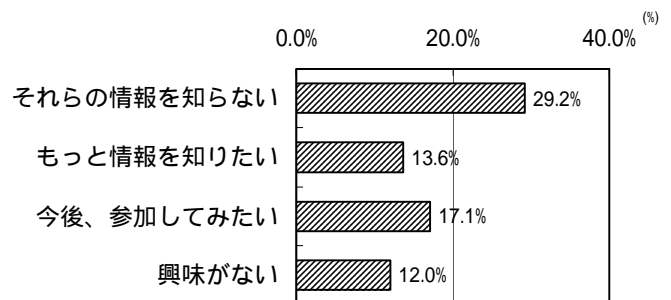
(1) イベント・教室の開催

現況

本市では、幼児から高齢者まで各層にわたり、運動不足やストレス解消・体力づくり・技能向上を目指して、あるいは友達や仲間との交流・家族とのふれあいの場として、誰もが気軽に参加できる多種多様なスポーツ教室やイベントを展開しています。(具体的なスポーツ教室やイベントは p17 参照)

図表 6 - 14 : スポーツイベントや教室情報に対する現況や意向
18 歳以上の市民、n=609

スポーツイベントや教室情報に対する現況や意向をみると、もっと情報を知りたいが 13.6%、今後、参加してみたいが 17.1% となっており、潜在的な需要があることが分かります。



具体的な施策

【生涯スポーツイベントの充実】

現在行われている「体育の日記念行事みんなでスポーツ」「スポーツレクリエーション祭」「ウォーキングいちかわ」といったイベントのPRの促進や内容を充実させていくことで、参加者の増加を図ります。

【成人のための健康増進イベントの推進】

市民の健康意識の向上を図るために、定期的にスポーツデータ測定サービスを行うことや、健康・スポーツに関するアドバイス・カウンセリングができる体制の構築を検討します。

【障害者スポーツの推進】

障害者のスポーツ機会の充実を図るために、障害者のスポーツイベント、教室を開催します。軽スポーツなどを体験する、障害者と健常者が一緒になった取り組みへ展開することも考えられます。

【青少年向けのスポーツ教室の充実】

市で既に実施しているサタデースポーツ教室やコミュニティクラブ事業について、市民ニーズの把握や総合型地域スポーツクラブとの連携などによって、より魅力的な事業へのブラッシュアップを図っていきます。

【高齢者向けのスポーツ教室の充実】

高齢者ミニデイセンター、いきいき健康教室、シルバー体操教室など既存の教室が、需要過多となっているため、各々の教室の実施数の増加、場所や指導者の確保を行っていきます。

【スポーツ情報の効果的な発信】

スポーツ関連情報の集約や、web サイトの充実などによって、イベントや教室への参加を希望する層に効果的な発信を行っていく必要があります。

(2) スポーツプログラムの開発・普及

現況

市川市では、健康都市宣言を行い、WHO（世界保健機関）が進めている健康都市プログラムに参加しており、市民の心と体の健康の確保を、市一体となって取り組んでいます。

また、「市川市健康増進計画（2006年3月）」の中で、基本目標「誰もが健康なまちをつくる（体と心）」を元に、運動に関する実践目標が立てられています。

図表6-14：「市川市健康増進計画（2006年3月）」のスポーツプログラム 計画の実践目標として記載

- ・健康のために「体を動かそう」という気持ちを持ち、歩く習慣を身につけましょう。
- ・日常の中で意識的に運動をすることを心がけましょう。
- ・運動週間を身につけるため、無理せずゆっくりとはじめましょう。
- ・膝や腰などに負担をかけないように、自分にあった運動に取り組みましょう。
- ・運動中はこまめに水分を補給しましょう。
- ・【乳幼児から小学生】子どもの頃から外遊びを積極的にするなど、運動習慣を身につけましょう。
- ・【40歳から】通勤時に一駅歩くなど、時間を見つけて体を動かしましょう。
- ・【40歳から】家事をしながらストレッチをするなど体を動かしましょう。
- ・【65歳から】無理せず自分にあった運動をしましょう。

具体的な施策

【多様な人に対応したプログラムづくり】

未就学児、児童、成人、子育て層、高齢者、障害者など多様な人を対象として、自発的にスポーツをする習慣を身につけられるスポーツプログラムの開発を検討します。検討したプログラムは、web サイトや広報誌での発信や、パンフレットの作成などによって普及を促進します。

健康増進の3要素として栄養、休養、運動(スポーツ)があげられますが、運動(スポーツ)は、他の2つと異なり、生理的な現象ではありません。そのため各人がスポーツの重要性を認識し、自分でその時間を作り、自発的にスポーツに取り組むことを訴えていく必要があります。

5 . スポーツの情報の収集・提供

各担当課に散らばっているスポーツに関する情報の一元化を図り、web サイト、広報誌などの情報の充実を行います。またスポーツや健康の相談が気軽に行えるような体制の構築を目指します。

(1) スポーツ情報の集約、充実

現況

スポーツ情報の発信として、現在、特に IT による情報発信を推進しており、インターネットからスポーツ施設の概要の閲覧や、スポーツ施設の予約を行うことができます。

スポーツ施設の予約は、平成 13 年度より市民サービスの一環としてスタートし、各登録者や団体がテニスコートと野球場の施設を、インターネットや、市内に点在する公共施設の情報端末から 24 時間、予約が可能となっています。

具体的な施策

【スポーツ関連情報の集約】

スポーツに関する情報は、高齢者、青少年、障害者、子育て支援など様々な担当課で展開されています。今後はスポーツに関する情報の一元化を図り、集約した情報を市民に提供していく必要があります。

【web サイトの充実】

下記情報を追加し、web サイトの充実を図ります。

スポーツ関係団体の概要と活動予定 / 各体育施設の利用状況 / 各競技の試合結果 / 年間行事予定 / 生涯スポーツ活動やレクリエーション活動への参加と呼びかけ / スポーツ相談 / スポーツ指導者

(2) スポーツや健康の相談体制の構築

現況

スポーツの相談体制として、各種スポーツ教室・体育行事等の指導者、各市民体育館・増進センターに常勤している運動指導員等がその役割を担っていますが、相談内容が特定の種目やスポーツに限定されている現状にあります。

具体的な施策

【相談体制の構築】

スポーツ、健康、介護予防などスポーツ活動やスポーツを通じた健康づくりに関する市民の様々な相談に対応するため、スポーツ相談の役割を担っている人材、関連課の連携を強化し、相談体制の構築に努めます。

【運動療法や運動処方への展開】

市内の医師会と連携をとり病後の運動療法（リハビリ）や、各個人の要望に沿った運動処方の作成などを検討していきます。

6. スポーツ競技力の強化

ジュニア選手の発掘・育成、指導者の確保・育成、スポーツ医・科学の推進、スポーツ施設・設備の整備などにより、スポーツ競技力の強化を図ります。

(1) 競技力強化体制の構築

現況

競技力の向上については、学校、企業や、地域スポーツクラブまた各競技団体を総括する体育協会を中心に競技者の育成・強化に努めています。

しかし本市の競技スポーツの水準は県民体育大会や中学・高校の県大会等の成績を見ると、一部の競技を除き成果をあげているとは言えません。人口規模からも優秀な成績を常に維持できるように、市体育協会、種目別競技団体等と連携して強化体制を確立し競技水準の向上を推進することが求められます。

図表6 - 15：県民大会での市川市の成績

年度	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
総合	7位	6位	6位	5位	6位	6位	6位	6位	/	6位
男子	7位	7位	6位	5位	7位	7位	4位	7位		6位
女子	7位	7位	6位	5位	5位	6位	6位	5位		5位

具体的な施策

【優れた素質を有する選手（ジュニア選手）の発掘・育成】

各競技団体が中・長期的な観点に立って、選手として適性のある者の早期発見と継続的な育成のための総合的な計画を策定します。また、ジュニア期（小中学生）から良質の環境の中で一貫した指導が行われるよう努めます。

【国内外のスポーツ交流の推進】

小中学生を対象に、サッカー、卓球、野球の海外遠征が、行われています。青少年の競技力の強化、見識の広がりを目的としており、今後も継続し支援してまいります。

【指導者の養成・確保とスポーツ医・科学の推進】

指導者の高齢化や、質的、量的にも指導者が不足しており、市公認スポーツ指導者養成講習会などを通じて指導者の養成・確保に務めます。また、競技力の向上を目指すために、選手のトレーニングやコーチングにスポーツ医・科学の知識を取り込んだ、より専門的な指導者の養成・確保に努めます。

【スポーツ拠点施設の整備・充実】

市民に高いレベルの競技スポーツを目の当たりに提供するため公式的な大会が開催できる総合的な運動施設の整備・充実を検討します。

【スポーツ関係団体等の整備・強化】

スポーツ振興の中核である体育協会の指導・強化体制を整備するとともに、強化主体である競技団体と学校・地域・企業が連携して選手の育成・強化に努めます。